

823

大閩記朝鮮征伐 全



月洋

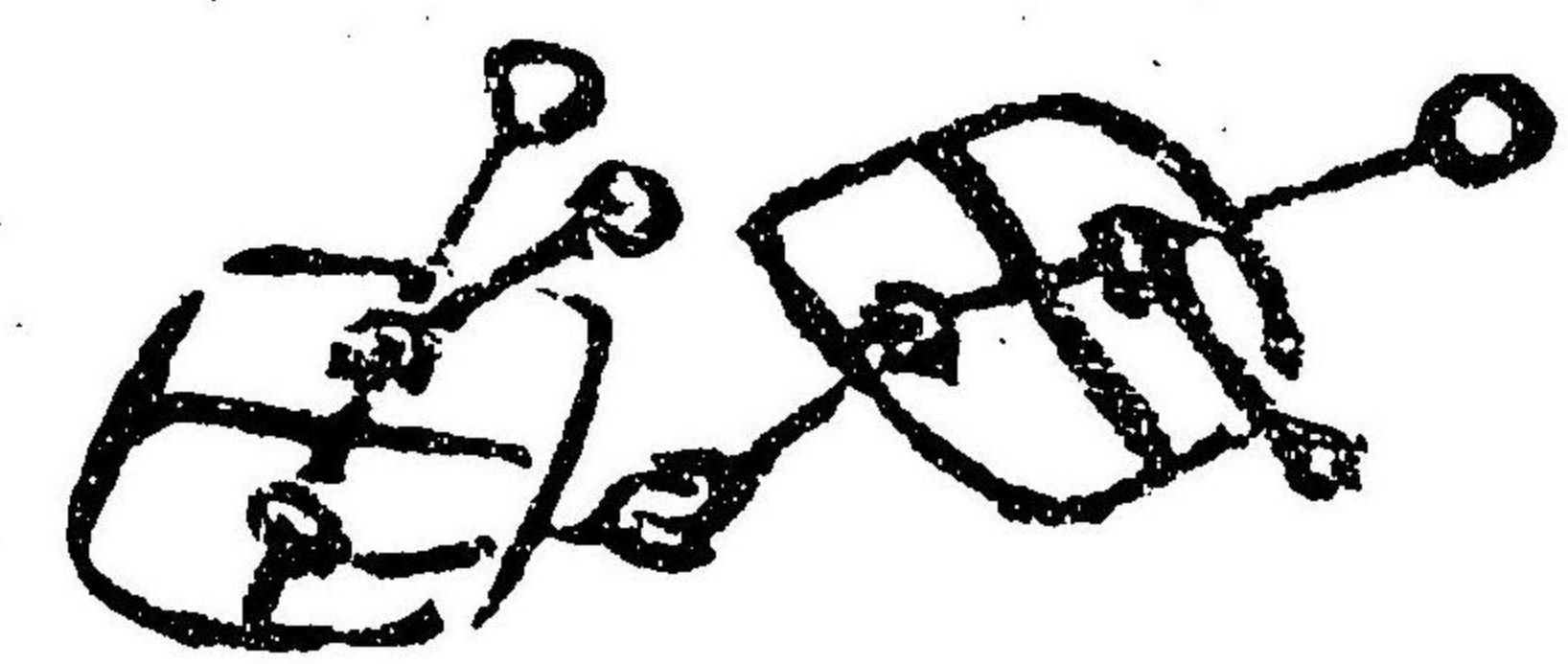


小

説

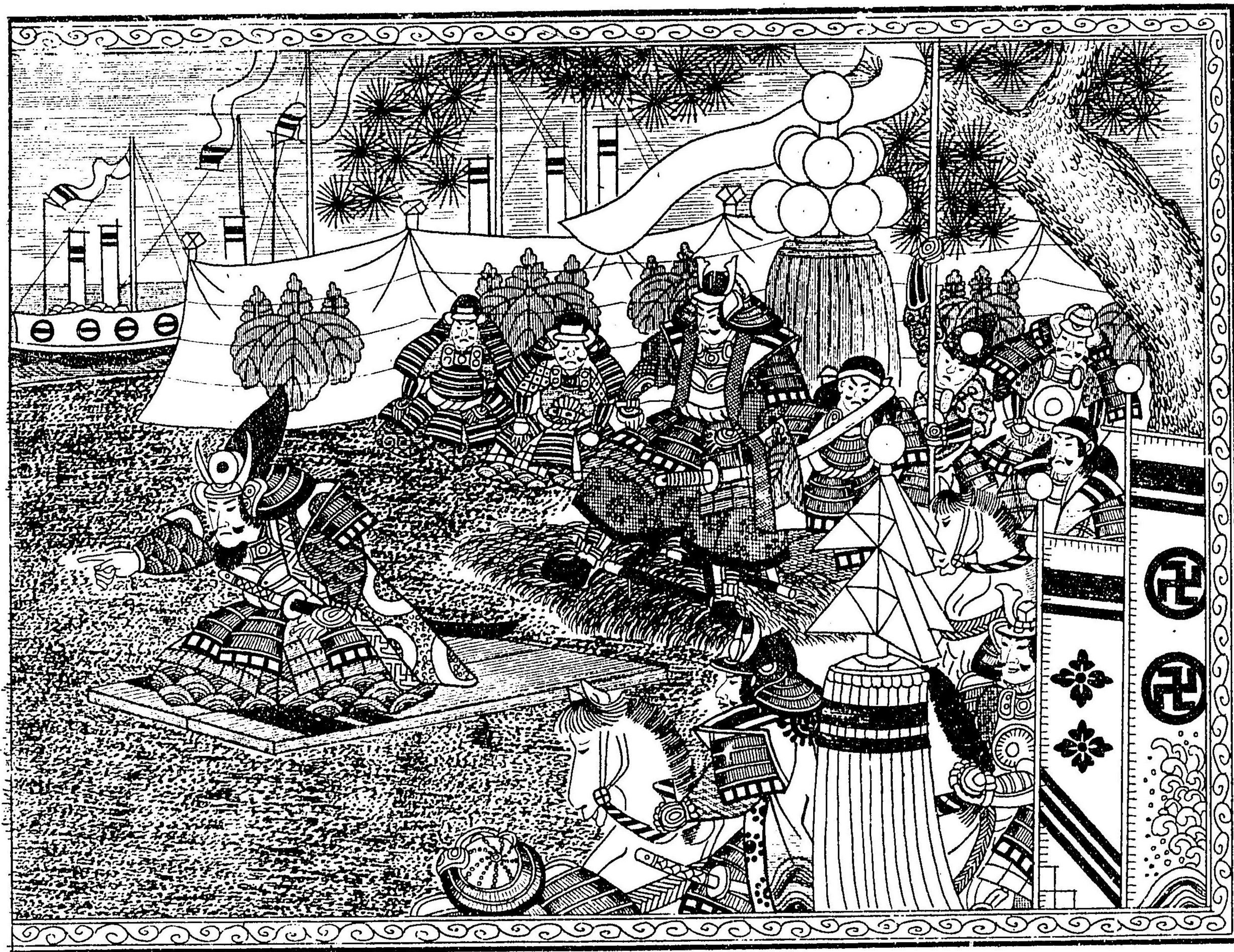
奇

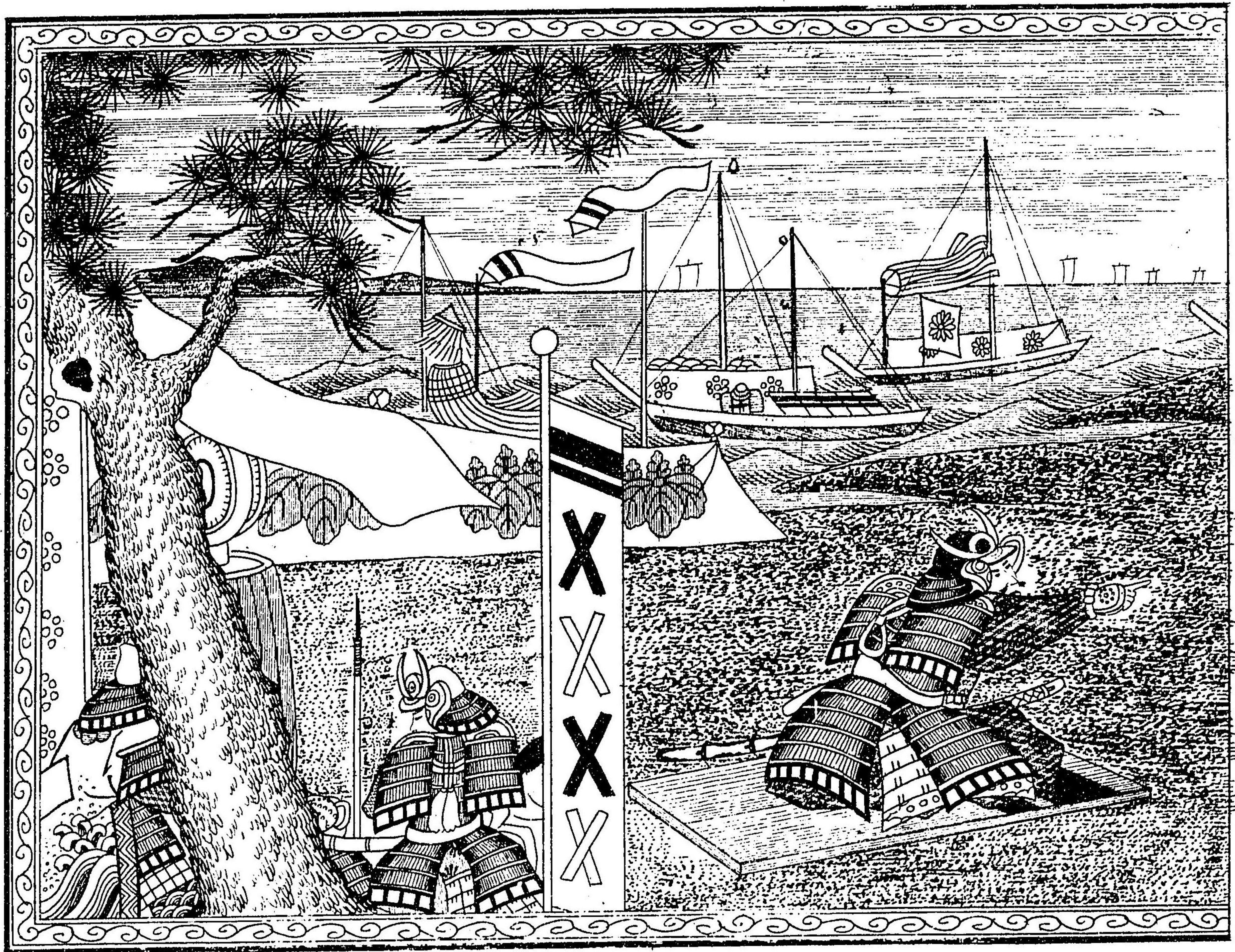
譚



西國加賀志版







加藤清正  
朝鮮九梁山ノ普泊力  
城郭ヲ攻落之圖

加藤清兵衛  
原田五良左門

曾根孫六

衣笠宗兵衛



飯田角兵衛

小城下総

出雲田宮内

并川金右門







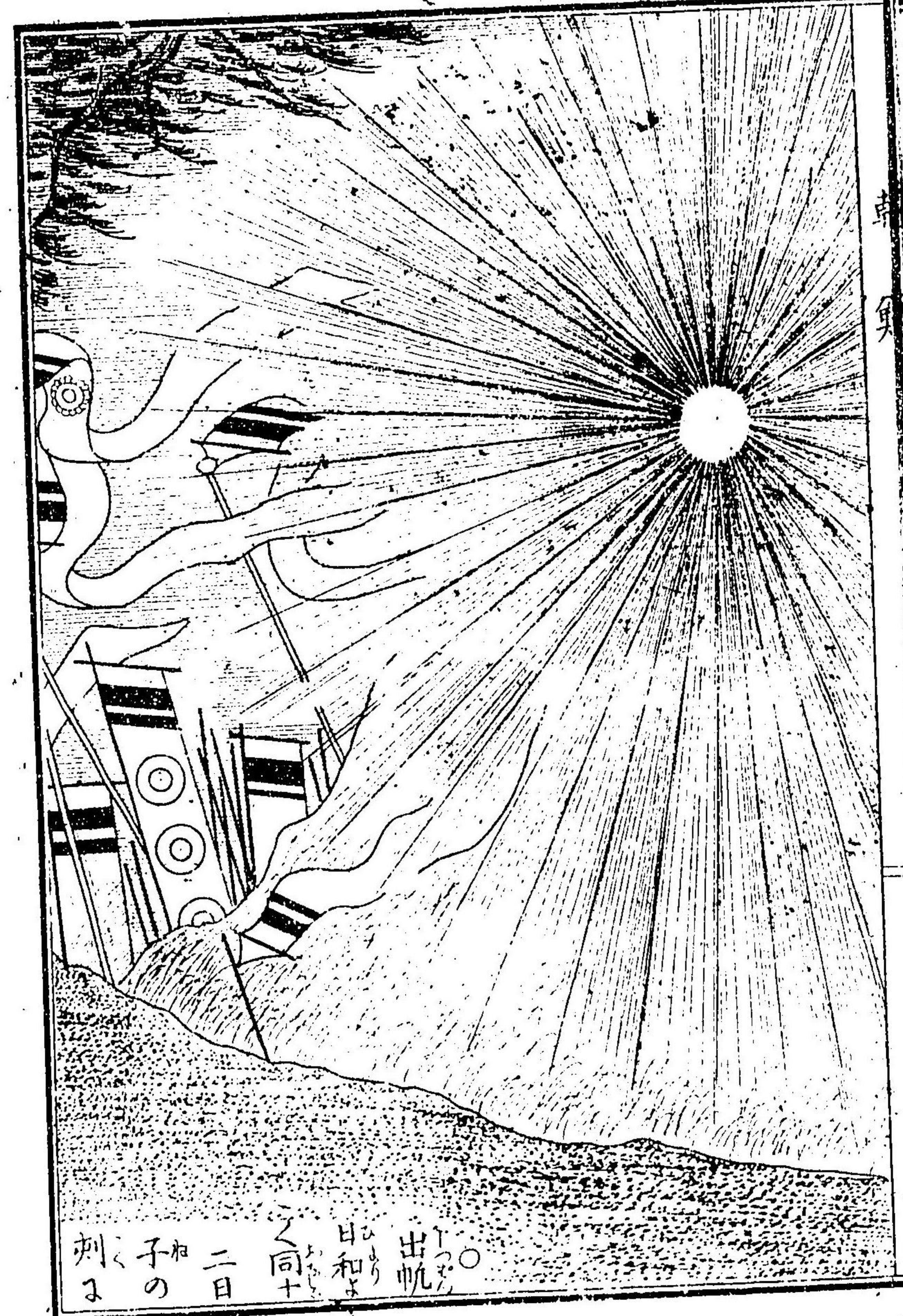
小早川隆  
景吉川廣家  
中川秀政すべて  
惣勢千万金三月廿六  
大閤殿慮を伺ひ京都御  
出陣して此前名古屋寺澤  
志广守領地御旅館天正関へ



相良宮内少輔黒田甲斐守  
友豊後守島津直房  
守高橋九郎秋元衛門左藤  
民部少輔島津又七郎九鬼  
大隅守脇  
改中務大  
輔加藤左  
馬頭久留



小西行  
長下知  
巴  
巴



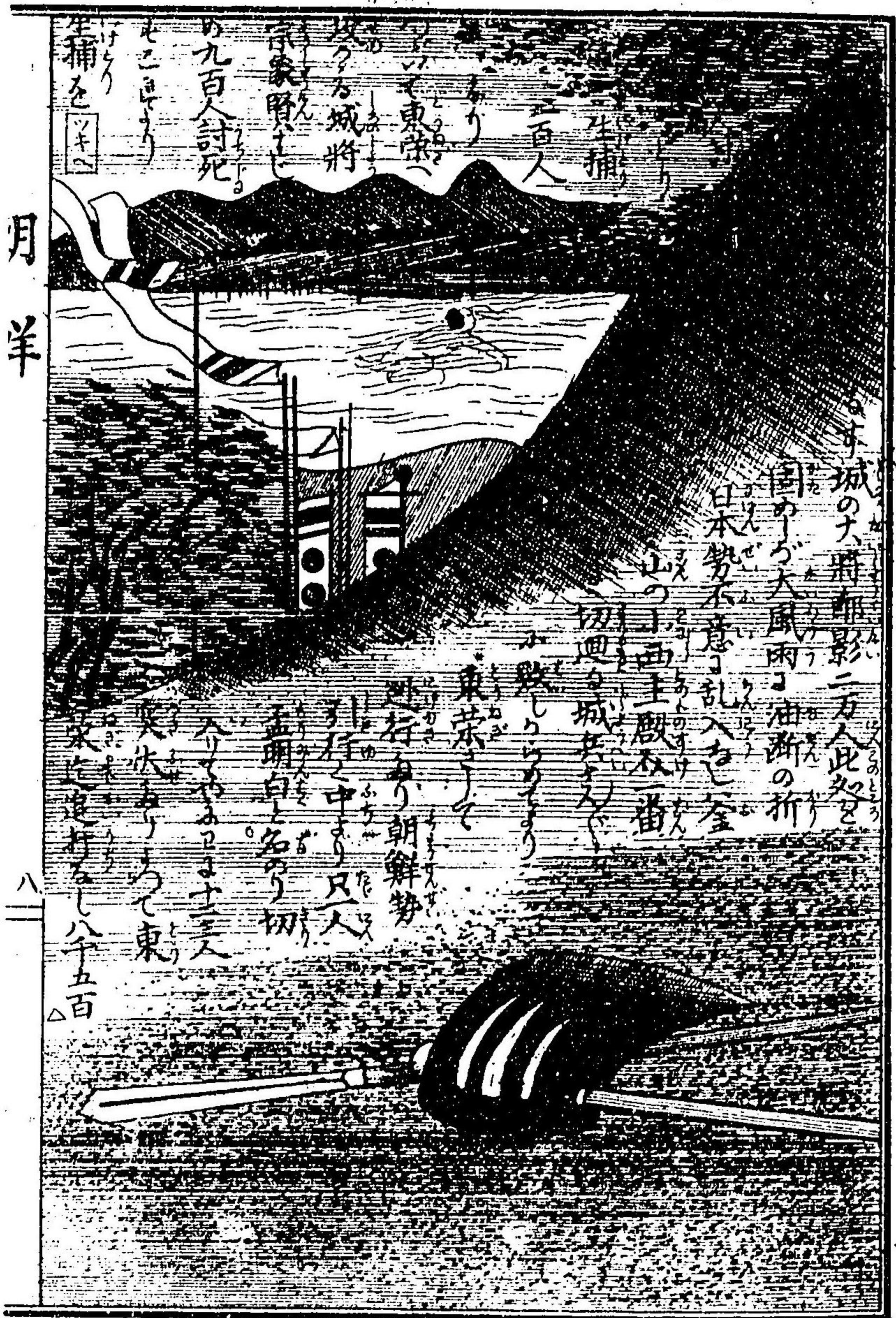
出帆  
日和  
之同十  
二日  
子の  
刺子





本戸の門六人六人の碇を引上す  
とも綱より帆を七分引上げ出船す  
十三日朝七時朝鮮金山

海に着岸す  
新橋雨  
風怒  
千念  
長七  
と上陸す  
鉄炮  
金山浦の  
野へ乱入



生捕  
二百人  
東條  
城將  
宗家  
九百人討死  
生捕を

城の大將  
影二万人此  
國が大風雨  
油断の折  
日本勢不意  
乱入を全  
山の上  
西上殿  
切廻り城  
入りて東  
八

月  
羊

八



車  
録

六  
洋

九



日本書紀に云く高州を  
 治むるは季誼六馬  
 由川と云ふ大河を前  
 して日本舞を防んとす  
 小西六川をり渡り  
 由政舞を八方へ追立申  
 八河とびり死たり

其後慶州城を柝あり  
 城將晋  
 酒香をの  
 正んを  
 見と見  
 時方長  
 途  
 次へ



叔父加藤清正小西了たぬ  
 が出帆を大なるいかり其ま  
 出帆を大なるいかり其ま  
 海上たよ終  
 小西の家来婦人を十人  
 追はつたつたるを  
 清正その乱妨を  
 追はつたつたるを  
 追はつたつたるを

其内細田甲と云ふものい元日本  
 大種と云ふものい元日本  
 大種と云ふものい元日本

見て夜打をきけ人討男を  
清正巨も一を奪其酒を  
たすたすたるは其夜敵  
たすたるは木料又職曹を奪り  
たすし千二百を打取清正  
在んて全海軍湯の城しを  
救り九日めして忠節  
諸將都介の先陣を  
加藤小西と争ひけるを  
諸將立やせりしを  
をなだめ終るしを  
定め清兵南大門



西六東南  
早朝  
両将とも進奈  
なま加藤清正  
道々の

里を破り終る言川と云ふ  
大河に至りし舟一艘もけせ  
はあたりの民家をこぼち筏を  
組ませる民家ハ残らば焼拂  
一軒もは留りて小西先へ人をまじ  
船を切流し清正もひまじとせ  
おのま王城の一番のりもせんめあり  
清正向の船を取来はと下知り  
曾根孫六游きて舟をとりて  
押渡り王城に押寄りて國王を  
手城に退去す勤景仁降参して皇子  
皇子両人を清正生捕けるる所々



ときを打破り  
 國塚の城を六  
 萬人籠りあ

●軍を引上  
 けよとの  
 報あり  
 諸將余  
 議をく  
 兵を



加藤の  
 臣ゆけり  
 敵將大を討  
 たり  
 勝り  
 たり  
 其の  
 外諸將  
 敵を

天保二年四月廿六日  
 朝興



明治廿四年二月十日 印刷  
全一册

日本橋區吉川町五番地  
著作  
發行  
堤吉兵衛  
印刷者

